

# 学生担当者報 4

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 中山祥吉 編集責任者 / 東井申雄

TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

Vol. 470  
立教 189 年  
2026 年  
3 月 25 日発行

## お知らせ

### 四月例会

期日: 立教 189 年 4 月 25 日  
時間: 15 時 30 分受付 16 時開始  
会場: 本部第 12 母屋

### 学生層育成者講習会

#### 日程・会場案内

直属  
・鹿島 4 月 15 日 大教会  
・船場 4 月 24 日 大教会

## 報告

### 二月例会

去る 2 月 25 日、教庁 4 階講堂において「2 月例会」を開催。出席は 39 教区、102 直属。

### 各地の動き

教区学生層育成者講習会

・高知 2 月 7 日 教務支庁  
岩井大輔委員出向  
・京都 2 月 14 日 府内大教会  
岩井大輔委員出向

### 直属学生層育成者講習会

・本愛	2 月 1 日	大教会	中山祥吉委員長出向
・川之江	2 月 10 日	大教会	松森芳夫委員出向
・松阪	2 月 20 日	大教会	東井申雄副委員長出向
・双名島	2 月 22 日	大教会	飯降好助委員出向
・名東	2 月 22 日	大教会	中山祥吉委員長出向
・生野	2 月 23 日	大教会	岩井大輔委員出向
・越乃國	2 月 23 日	大教会	西川寿一委員出向
・中和	2 月 24 日	大教会	坂本輝男委員出向
・此花	2 月 24 日	詰所	東井申雄副委員長出向

### 人事

《立教 189 年 2 月 25 日付》  
【直属学生担当委員長辞令交付】  
・田中理嗣(岐美・名美原)  
・徳本真次(愛豫・廣船)  
・野田慶行(越知・土州)

## 「まなびばを通して共に育つ」



先日、家族のグループラインに「最後のランドセル登校」と題した姪の写真が送られてきました。4 月は新たなステージを迎える時期だなど再確認するとともに、家族皆で姪の頑張りを称え今後を楽しみにした瞬間でした。

古い話ですが、私が信仰に向き合うようになったきっかけの一つにこんな出来事があります。高校の友人に誘われて友人が所属する教会での 1 泊 2 日の行事に参加しました。内容としてはウォーミングアップにはじまり楽しいグループタイム、おつとめの練習グループでの話し合いに先生からのお話と、今振り返ればまなびばみたいな内容だったと思います。楽しかった思い出はありま

すが、教理について学んだ内容は覚えてはいないです。行事後に街中で「佐村君元気にしてた？」と声をかけてくれる人がありました。すぐには分かりませんでした。が、お話をしてくださった先生です。その後も会うたびに声をかけてくださいました。そうした一つの出会いを大切に「姿勢に「私もこの先生のような大人になりたいな」と思い描くようになりましな」。行事を通してめぐり合わせて頂いた出会いが一人の若者を信仰へと一歩導いたのです。

また、昨年初めてまなびば事前研修に出向させていただきました。その教区では「まなびばを学んで伝える為の研修会が楽しみであり、この研修に青年会や婦人会の人にも参加してもらえればもっと教区としてのまとまり

### 業務記録

《立教 189 年 2 月 16 日～3 月 15 日》  
2 月 17 日 学生連絡会  
学生部部会  
24 日 広報部部会  
25 日 学生部部会  
担当者活動部部会  
3 月 2 日 学生生徒修養会大学の部  
直前研修会(3 日)  
4 日 学生生徒修養会大学の部  
(3 日)  
5 日 広報部部会  
学修部部会  
9 日 学生生徒修養会  
高校卒業生コース直前研修会  
10 日 学生生徒修養会  
高校卒業生コース(3 日)  
13 日 委員会  
担当者活動部部会  
人材育成部部会  
教祖百四十年祭  
学生おぢばがえり大会  
プロジェクトチーム会議  
14 日 学生連絡会

### 学修部 委員

佐村 陽一

もできるし学生の丹精にもつながると思う」と期待を込めて話をしてくださいました。学生に伝える為のプログラムを通して、まずは育成者である我々がまなびを得られる機会を与えて頂いているのだと思います。

今年のまなびばのテーマは「親神様のご守護につつまれて」です。毎年新しいテーマ・プログラムを作る為に時間を厭わず励むまなびばチームの姿に、こちらもエネルギーをもらっています。  
4 月 26 日～27 日にかけてまなびば研修会、4 月 25 日と 6 月 25 日にはまなびば Lite 研修会が行われます。教区・直属問わず今後ともまなびばの活用をお願いいたします。

#328 みんなでおぢばへ 教祖 140 年祭 学生おぢばがえり大会 立教 189 年 3.28

「立教百八十九年学生生徒修養会 大学の部」開催報告

去る3月4～8日にかけて「学生生徒修養会 大学の部」を開催。481名(男子258名、女子223名)の大学生が受講した(スタッフ267名)。

本年は、「みのり塾」(12母屋)、「いきみ塾」(7・8・9母屋)、「よふき塾」(38母屋)、「まこと塾」(38母屋)「つなぎ塾」(高知詰所)の5塾体制で実施した。

お引き寄せ頂いた学生達は、共同生活を通して絆を深め合いながら、『ひのきしん』感謝を実践に『』のテーマのもと、共に語り合い、励まし合いつつ、親神様の懐に抱かれながら、教祖のみ教えに触れる充実した五日間を過ごした。

初日。緊張と不安と期待が交差するなか開講式を迎えた学生達は、その後、各塾での心をほぐす楽しいプログラムを通して同班の仲間やカウンセラーと交流を深めながら次第に打ち解け合った。

2日目。学修最初の『講話』(塾別)では「お道の素晴らしさ」かしのもの・かりもの」と題して、親神様のご守護やお働きを学んだ。

3日目。四つのテーマの講義から一つを選ぶ『選択講話』

では、それぞれの立場で道の御用に活躍される講師陣のおたすけ話に聴き入った。また、午後からはそれぞれがイメージするひのきしんについてを語り合い、その後の『全体講話』「ひのきしんは心の持ち方一つ」を聴き、ひのきしんには「親神様への御守護への感謝の心」が大切だということを学んだ。

4日目。ひのきしんの実践に向けての心作りを経て、いよいよ今回のメインプログラムである『ひのきしん』を通して、感謝の心を実践に表す。尚、ひのきしんでは、礼拝場の畳拭き、トイレ掃除、神苑での除草作業など尊いおぢばの伏せ込みを行った。

最終日。『塾長講話』では帰ってからひのきしんをはじめとした信仰実践の後押しをし、『閉講式』では、表統領中田善亮先生よりご挨拶を頂き、代表者に修了証書が授与され幕を閉じた。

この度の学修で受講生のみならず、スタッフ一同も、ひのきしんの意義を再確認し、感謝を実践に表す五日間を過ごした。誠の心で人材の育成にとめる中で、「共に育つ」道の育成の精神を見落とすことなく、今後も信仰を伝える学修の発展に努めていきたい。

「立教百八十九年 学生生徒修養会高校卒業生コース」カウンセラー感想文

私は高校の部から大学の部まで開講されたすべての学修に参加させていただきました。そしてこの度初めて学修スタッフのお声がけをいただき、カウンセラーとして学生さんと関わる事ができて有難かったです。

今回の学修では、コンセプトである「お道っていいな、おぢばってあたたかいな」を私自身が強く感じました。班の中では、人が怖くて馴染めるまで少し時間がかかっていた女の子に男の子が優しく話しかけに行ったり、身上で途中グループワークに参加できなかった男の子には女の子達が夜に動画を撮って励ましのメッセージを送ったり、お互い助け合っている姿があたたかかったです。また、常に私たちの班を気にかけてくださっていた主任先生・副主任先生・アドバイザーさん始めスタッフのみなさんの優しさに包まれ、安心して期間を通ることもできました。アドバイスしてくださったことを実践してみると、班の子同士の距離も縮まり、班がより良い雰囲気になって感動しました。相方さんと私はどちらも初めてのカウンセラーだったの

ですが、相方さんが学生さんにどうやったら喜んでもらえるかを一番に考え、真剣に学生さんと向き合っている姿は誠実の姿だなと思いました。期間中もお互い時間を見つけてコミュニケーションを取りながら、心を合わせて通り切ることができました。

私はお道の中で人と人とのつながりがあたたかい所が大好きです。学生時代のカウンセラーさんや班員の友達と今も連絡を取っていることから、今回の学生さんにも1年後、10年後、その先もつながっているお道の仲間になってほしいという気持ちで通らせていただきました。最後のグループタイムで、班員のみんなそれぞれから「天理教っていいな」「あたたかい班だった」「またみんなと会うために天理教とながつていきたい」という言葉を言ってもらえたのが一番の喜びでした。

学生も私自身も大きな親心を感じ、とてもあたたかい学修でした。感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございます。

明日につながる 学生WEBSITE Happist

https://happist.net



QRコード読み取り

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介します
- おぢばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

「立教百八十九年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」受講生アンケート抜粋

【男子】

・同学年の人達と班になってこの期間を過ごすのはこれが最後なのでなんだか寂しい。だけど大学の部も大学の部で楽しみなので参加しようと思う。

・高校は天理に来て寮生活をしていて、大体みんな天理教に前向きな熱心な人だったけど、学修で出会ったみんなはそれぞれ違う天理教への向き合い方で、その人たちと気持ちを共有できてとてもいい時間になりました。天理教につながる人と沢山出会えて話ができすぎてよかったです。

学生担当者報

・本当に出会った人みんなが優しく感動する日々でした。自分は一人ではなく、沢山の人に支えられているからこそ今の自分がいると思うし、これからは今までの恩を沢山のの人に返して笑顔の輪を喜びに変えて、陽気ぐらし

の世界を少しでも実現できる人になりたいです。そして親神様にお喜びいただけるように日々人だすけに励みたいです。

・多くの人や新しい人と関わるレクリエーションや企画があつて楽しかった。自分の知らないことや新たな発見や学びがありました。

【女子】

・初めて学修に参加して不安に感じる事が沢山あつたけど、カウンセラーと班メンバーがすごくいい人たちで楽しく3日間過ごすことができました。天理教について深く知ることができました。

・ずっと楽しかった、班のみんなとは今までも友達だったんじゃないかというくらい仲良くなれたし、他の班や

「立教百八十九年 学生生徒修養会 大学の部」受講生アンケート抜粋

1年男子

今年も学修の班・プログラムがとても楽しく、充実したものとなり幸せな気持ちと感謝の心でいっぱいです。テーマである「ひのきしん」について、その意味と、これから私たち学生がどのように通らせてもらったらいいか。班の友達たちとじっくり、深く考え、話し合うことができました。

1年女子

おちばの人は本当にあなたがかいなど感じた。同じ班の人達もすごくやさしくて面白くて最高の学修になった。また、ひのきしんについて深く、色々な視点からすべて良かった。あたりまえがあたりまえであることへの感謝が大切だと学べた。

2年男子

友達に沢山でき、共に天理教にふれることができ良かったし、楽しかった。ひのきしんについて、その意味や実行する方法を学べた。また、多角的な意見を忘れ

ずにまわりの人に良い影響を与えられるように信仰したい。

2年男子

自分は本当に色々な人たちに支えてもらって生きていることをすごく感じました。学修にこれ、この行事を用意してくださった人達や裏方のみなさん、カウンセラーさん、そして学修に参加させてくださった教会長さんにすごく感謝の気持ちが溢れました。

2年女子

やっぱり学修最高だと思った。私には必要な時間だと改めて感じる事ができた。おちば・天理教のことがもともと大好きになった。今回の学修ではひのきしんについて学んだ。親神様からお借りしている身体で元気に生きていること、陽気ぐらしができることへの感謝の気持ちをひのきしんを通してお伝えする事だと分かった。ひのきしんは心次第であり、

同じ組のみんなとも仲良くなれた。色々な話、普段なかなかできないことを沢山して、とても充実した3日間になったし、心から参加して良かったと思えました。改めてお道を信仰することの素晴らしさ、良さを実感できました。もつと沢山伝えていきたいと思えました。

・とても楽しかったし、天理教で良かったなと改めて思う事ができました。天理教の人はあたたかいし、良い人が多くて心が安心できる、そんな場所がおちばで、また帰ってこようと思えました。ありがとうございました。

・仲良くなれん、面白くない、大丈夫かなって思う思いは本当にすぐ無くなって、なめてたなって思いました。沢山の大切な仲間ができたし、思い出ができたし、信仰のこと、通り方を学べ、改めて天理教って良いなって思えました。

日常のありふれた時間も心によってひのきしんになると分かった。

3年女子

周りに天理教を真剣に信仰している人がいなかったので同年代の信仰に対する考え方を知れて嬉しかった。ひのきしんに対する考え方や、お道について様々な意見があると知れて嬉しかった。また、勉強になりました。参加して良かったです。

4年女子

将来、どのようにお道に関わっていくかどうかわかりませんが、ずっと関わり続けたいと改めて思わせていただけの機会でした。信仰をしていけば何も心配することはないと言われますが、そのことが良くわかった気がします。就職という人生の節目にこのようなことを思わせていただきとても有難いです。春からも素直な心で頑張りたいです。

「立教百八十九年 学生生徒修養会 大学の部」カウンセラー感想文

今回、スタッフとして学修に初めて参加させていただきました。学生時代、学修には参加させていただき今でも繋がる仲間とただただ楽しかった思い出があります。いつか、カウンセラーをさせていただければなと思っていたので今回お声をかけていただき本当に嬉しかったです。

ですが、学修が始まる前は本当に自分で務まるのかとドキドキしていた自分がいました。学生に対してはもろろん、スタッフの方たちともやっていると重かなとか、学修が始まる前特有の気が重くなる思いがありました。

今回、私はカウンセラーを務めさせていただき、学生と一番近い距離で5日間を過ごしありがたいなと思うことばかりでした。終わってみれば始まる前に感じていたあの気持ちは嘘だったかのようになつた。山ほどの感謝、そして大粒の涙で溢れていました。

今回のテーマは「ひのきしん」感謝を実践に。事前研修で、カウンセラー同士でひのきしんについて考え実践もしましたが明確な答えなどは見つからなかったような気がします。ですが、練り合っただけの実践をしてみると自然

と、親神様にお借りしている身体を使ってひのきしんさせていただきご守護に生かされていることを改めて感じ、親神様への感謝の心が溢れ出てきました。澄んだ心でひのきしんができてとても気持ちが良いものでした。

学生にもこんな気持ちになつてもらいたいなと思いつつながら臨んだ本期間でしたが学生は自分たちが思つてより柔軟で素直な考えでひのきしんに向き合っていました。ひのきしんが終わってからお借りしている身体を元気に使わせていただけて陽気にできて楽しかったです。と言ってくれた学生さんがいてカウンセラーをやっている報われた気がして安堵と嬉しさが込み上げてきました。感謝で溢れた学修でした。相方さんには沢山助けをいただきました。また、スタッフのみなさんの明るさと優しさが滲み出た声かけに何度も救われました。共に過ごしたカウンセラーの皆さんにもありがとうが言い切れません。

沢山の人に救われた学修、次からは私自身が今回受け取った恩を返せるように勤められたいと思います。ありがとうございました。

青空

ブラジルで生まれ育った私は、現地で1月上旬に行われる「学修」のような行事に参加していました。当時はただ楽しませてもらうばかりでしたが、自分自身と向き合うきっかけをいただいたのも、その行事のおかげだったと今振り返って感じています。

この度、一年間学生担当委員会事務局で勤務し、初めて運営側の視点で経験をさせていただきました。誰かのために一生懸命に頑張る姿や、一年間かけて研究を積み重ね、新鮮なプログラムを提供しようと尽力するスタッフの皆様の姿勢を拝見し、多くのことを学ばせていただきました。

それらの経験を通じて、私自身の信仰をより深めることができ、また一人の人間としても大きく成長させていただけたと実感しています。この一年間の学びを今後の歩みに活かして行きたいと思えます。

学生担当委員会 局長  
並木 マリアナ 弘江

「立教百八十九年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」開催報告

3月10日から12日にかけて、『学生生徒修養会 高校卒業生コース』を開催。受講生259名（スタッフ164名）が参加した。本コースは、進学や就職などそれぞれの道へと進む大切な時期に、親神様のみ教えを学ぶ中で、親神様、教祖はもとより、親やこれまで自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちに気付いてもらうと共に、同世代の道の仲間とのつながりを深めることを目的に企画された。

初日は、『開講式』にて本部長・山本忠治先生より挨拶を頂き、また学生担当委員会・中山委員長挨拶を聞いた後、グループタイムを通して、お互いのことを知り合う時間を過ごした。2日目には、自分自身の過去を振り返り、多くの人に支えられてきたことに気付くことをねらいとしたグループタイムを行った上で、浪華分教会長・上田和子先生より「親神様のご守護の有難さ」と題した講話を頂戴した。その後『ふりかえり』の時間では、それぞれが感じる親神様のご守護について語り合った。午後からの『組別行事』では、組毎に工夫を凝らしたプログラムを行い、和やかな雰囲気の中で、班員以外の仲間とも親睦を深めた。『班

タイム』では、神殿や神苑のひのきしんを行う班、屋内や屋外でゲームや昔ながらの遊びに興じて親睦を深める班など、班ごとに主体的に計画した活動に取り組み、有意義な時間を過ごした。夜には、『班内感話』を行い、自分の信仰や夢について真剣に語り合った。

最終日には、主任より「明日の君たちへ」と題した講話を聴いた後、振り返りを行うとともに、この3日間で学んだことを再確認した。そして、み教えを基にこれから先の人生を生きる上での決意を記し、封筒に入れて持ち帰った。それぞれが新生活をスタートする時に開封し、学修で学んだこと気付いたことを今一度思い起こして、今後の日々を活かしてもらうことをねらいとするものである。

最終日。『閉講式』において、表統領・中田善亮先生より一同に対しお言葉を頂き、その後、代表者に修了証書が授与され、2泊3日の、短いけれども内容の濃い高校卒業生コースは幕を閉じた。